

平成 29 年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員

マネジメント研究会への参加報告

フィールド科学系部門 塩路 恒生

1. はじめに（目的）

技術職員の組織マネジメント能力の向上を図り、中国・四国地区における大学・高専の技術支援体制の機能化に資することを目的とし本研修に参加した。

2. 期間・場所

期間：平成 29 年 8 月 31 日（木）から平成 29 年 9 月 1 日（金） 2 日間

場所：山口大学常盤キャンパス（〒755-8611 山口県宇部市常盤台二丁目 16 番 1 号）

3. 参加者等

受講者：中国・四国地区技術職員 49 名

4. 研修内容

1 日目は、全体講義として「部下のマネジメント研修」の題目にて、株式会社フォーブレーション 稲田智子氏（特定社会保険労務士・人事労務コンサルタント）を講師に招いて、管理運営体制における研修を 6 名ずつ A～H のグループに分かれ受講した。最初に、講師からマネジメントについての詳しい説明を受け、次に部下のマネジメントの実際として、各グループ内でそれぞれの事例についてケーススタディーを行っ

た。2 日目は、「社会・環境の変化を踏まえた研修のあり方」の事例紹介として、山口大学・田内康氏、津山高専・中尾三徳氏、香川大学・松本直通氏、阿南高専・高岸時夫氏の 4 名の発表があり、それぞれ質疑応答と、最後にまとめとしてディスカッションが行われた。

5. まとめと感想

全体講義では、いくつかの事例について、どのように対応したらいいかをグループ内で意見を出し合い解決策を検討したが、どれも現実性のある事例ばかりであり、最後まで高く関心をもって討論に参加することができた。中には、実際に広島大学内で起きているものに近い事例もあり、非常に参考になった。また、他の大学・高専においても同じような問題が起きており、社会現象として問題になっていることがよくわかった。この研修を受講して、部下マネジメントにおいて、まずはしっかり相手の話を聞く（傾聴）ことが大切だとわかった。また、問題がおきて対応する際には、日頃の言動や対応について記録を残しておくことが必要だということを学んだ。2 日の発表は、どれも非常に興味深い内容であった。これらの事例を今後の参考にしていきたい。